

対馬からオオトゲバゴマフガムシの記録

さかい 境 よしあき 良朗

ゴマフガムシ属 *Berosus* は日本からは8種が知られるが、これまで対馬からは記録がない（新田・吉富，2012；中島ほか，2020）。オオトゲバゴマフガムシ *Berosus incretus* d'Orchymont, 1937 は日本では本州・四国・九州・南西諸島から記録があるが産地は非常に局地的で、特に九州本土域では鹿児島県から知られているに過ぎない（新田・吉富，2012など）。今回、対馬で本種を初めて確認することができたので報告する。

採集者は、すべて筆者であるため省略した。

多数，長崎県対馬市豊玉町佐保，11. V. 2020；多数，同地，24. V. 2020；多数，同地，15. VI. 2020；多数，同地，11. IX. 2020

生息地は海岸近くの恐らく廃田跡だと思われる湿地で、数日降雨がなければ干上がるような不安定な環境である（写真3）。

本属のうち翅端に棘をもつ数種（トゲバゴマフガムシ亜属）はいずれも酷似しており、同定にあたっては後胸腹板の形態だけでなく、体長や各部の形質（前胸



写真1. 対馬産オオトゲバゴマフガムシ♂（左：背面全形，右：交尾器）



写真2. 後胸腹板（上）と腹部腹面（下）（左：♂，下：♀）



写真3. オオトゲバゴマフガムシの生息環境

背の点刻，翅端棘長，交尾器中央片など）を総合的に見ていく必要がある。今回採集された対馬産の個体については，交尾器中央片は新田・吉富（2012）に図示されたものとはほぼ一致していたが，体長は4.1～5.1mm（ $n=18$ ），平均値4.47mmで新田・吉富（2012）で示された他産地の測定値5.04mmより明らかに小型の集団であった（写真1）。また，後胸腹板などについ

ても若干の変異が認められたため（写真2），標本を中島淳・渡部晃平の両氏に精査いただいたが，総合的に見て本種と同定してよいとの結論を得た。本属は同所的に複数種が見られることもあるようなので，今後も注意深く調査を続けたい。

最後になるが，同定の労をとられると共に貴重なご助言，ご指導をいただいた中島淳・渡部晃平の両氏にお礼申し上げる。

○引用文献

中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之，2020. ネイチャーガイド日本の水生昆虫：141, 316. 文一総合出版，東京.

新田涼平・吉富博之，2012. 日本産ゴマフガムシ属 *Berosus*（コウチュウ目，ガムシ科）の分類学的再検討. さやばねニューシリーズ（7）：18-31.